

## 国内出張報告書

提出日 平成 21 年 12 月 22 日

申請者	氏名	加藤 恭丈
	所属・職	医学系研究科・助教
出張期間	平成 21 年 12 月 11 日	
出張先	横浜 (パシフィコ横浜)	
出張目的	第 32 回日本生化学会大会に参加するため	
研究課題名	バイオインフォマティクスを用いた MATII 標的遺伝子の探索	

技術解説・プロトコル・得られた成果など

第 32 回日本生化学会大会は、全国の生化学・分子生物学分野、生命科学および医学分野の科学者が一堂に会して、互いの研究成果および議論を交わす会議である。今回、私は「分子・複合体の機能」のポスターセッションにて、「バイオインフォマティクスを用いた MATII 標的遺伝子の探索」のポスター発表をおこなった。この発表では、私の指導学生（医学科 5 年生）が主に、転写因子 MafK のタンパク質複合体の構成因子である S-アデノシルメチオニン合成酵素（MATII）の標的遺伝子について、マイクロアレイ解析法を駆使して探索した成果を報告した。また、MATII の標的遺伝子候補の中に、MafK の標的遺伝子候補も列挙することができた。

この発表により、MATII が、本当に今回同定された遺伝子の発現に作用するのかを実験として証明してみるの如何かという指摘を受けた。この点については、発表前から予想されたことだったので、今後、証明していく予定である。また、MATII が、全ての MafK 標的遺伝子の Maf 結合配列（MARE）を介してどのように制御するのかについても問われた。この点については、遺伝子発現の変動を確認した後に、クロマチン免疫沈降実験から証明していくことを述べた。

一方で、指導学生（医学部 5 年・太田嶺人君）による、初めてのポスター発表であった。彼は、この研究成果から医学部奨学賞も受賞し、今後の成長が大変期待される。

